お茶の時間　心に響く言葉　1

第99号　2010.8.28　(1)

ウンガリ～

喝

だあ！

第98号　2010.6.9　(1)

名筆を楽しむ

新潟の、高名な書家、江川蒼竹氏の板書「明眸皓歯」

六十歳になられた年、目前で書いていただいた作品だが、もう二んな機会は望めない。有り難い日の姿を懐かしく思い出す。

めいぼうこうし
明眸皓歯とは、明眸＝美しい瞳、皓歯＝白く輝く歯、の意で美人の形容だ。

唐の詩人、杜甫の「哀江頭（江頭哀しむ）」に"明眸皓歯今何在"とある。

あの美しい人は今どこにいるのだろうか、安禄山の乱で殺された楊貴妃を指すどんなに美しかったろう。

第97号　2009.11.15　(1)

我家の御朱印帳より

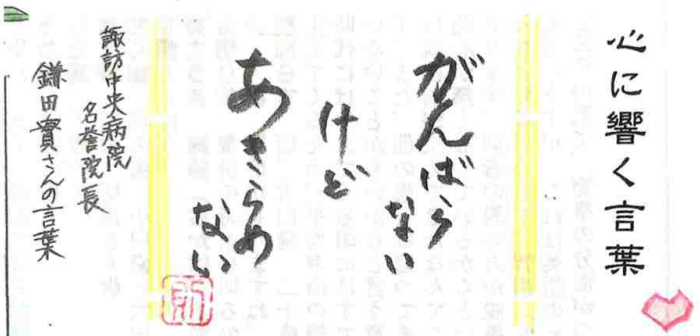
奈良京都はいつ訪れても混雑してる。先日興福寺へ阿修羅像を見に出かけた折東大寺に立ち寄り朱印帳に記帳していただいた。

大仏殿では、修学旅行の中学生たちが柱の穴くぐりに歓声をあげていた。引率の先生は、穴から頭を出す生徒の撮影に大わらわだった。

華厳

第100号　2010.11.1　(1)

心に響く言葉



飯塚中央病院
名誉院長
鎌田實さんの言葉

「頑張れ、頑張れ！」と言われて励ましされるより「頑張らなくていいよ、だけどもあきらめちゃダメよ」と言われたほうがやんわり受け入れられるようだ。

でも、あきらめないためには頑張る気持は切り離せない。辛いけどね。

だから鎌田さんの言葉から相手へのいたわり、やさしさが感じとれるのかな。言葉って大切

21号　2011年2月2日　(1)

こころに響く言葉

武智鉄二（演劇評論家）
1912年～1988年
※数十年前の新潟日報に掲載された随想のタイトルから。

時の流れを早く感じるようになったのはいつ頃からだったか。

新年を迎えてすでに一か月。本当にアッと言う間に過ぎた。春が来て夏が来て、秋、冬……ウーン……

第102号　2011.4.23　(1)

言葉は心

こんくらいの放射線は
何の害もないって言ってた
あの人たちは困んねんだ
放射線がないとこうに
住んでんだから…
誰を信じていいのか
分からねんだよ

新潟日報　社会面から抜粋

全村民の避難が求められることになった、福島県飯舘村の農家のご夫婦の言葉だ。

東京電力福島第一原発事故は、安全を信じ村の活力になる、と信じて受け入れた人々の暮らしを一変させた。

新潟県も、柏崎市と刈羽村に世界最大級の東京電力の原発を抱える。

福島県で起きた被害とおもうと、他人事ではいられない。

第103号　2011.8.3　(

心に響く言葉

分からなくたっていい
一流のものを見せ
一流の音を聞かせる
それを繰り返していくうちに
彼ら自身の物差しができる

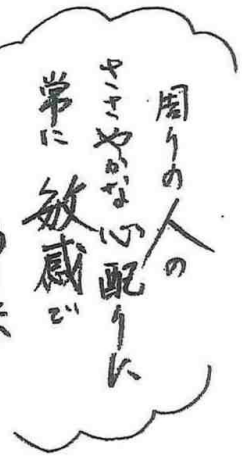
（今年3月、98歳でてくなられた）

彫刻家、佐藤忠良さんの言葉。

幼い子どもたちには「目で触れて、体で触れて物差しを作っていくことがとても大切だ」と。

第104号　2011.10.7　(1)

心に響く言葉



15年前の、新潟日報投書欄「窓」で見つけた。

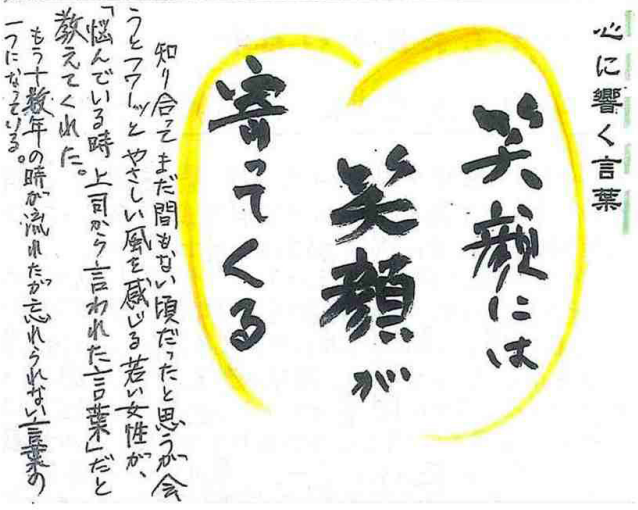
当時17歳の女子高校生が「批判することしかできない人間にはなりたくない。様々な角度から物事を考えられる私でありたい」と綴っている。

今32歳。どんな女性に成長しただろうか。

外見で判断は出来ないが、幼い大人が昨今増えているような…

第105号　2012.2.6　(1)

心に響く言葉



知り合ってまだ間もない頃だったと思うが会うとフワッとやさしい風を感じる若い女性が、「悩んでいる時上司から言われた言葉」だと教えてくれた。

もう十数年の時が流れたが忘れられない言葉の一つになっている。

2012.4.4　(1)

言葉は心

良くも悪くも思い出たっぷりの年齢だが今更逆戻りは出来ない。

この先は、きっぱりシャキッと前進だ。